瓣ハ常菊トチガヒ、細筒子ニシテ、末五出、瓣多ク重デ心ナシ、變ジテ濶瓣トナレバ、黄色淡クナリテ、中ニ小心アリ、此菊花葉共ニ苦味ナクシテ、食料ニ充ベシ、故ニリヤウリギクト云、此花藥用ニ良トス、今藥舗ノ菊花ハ、奥州仙臺ヨリ出ス、常ノ黄菊ニシテ味苦シ、又夏菊ヲ用ル人モアレドモ宜シカラズ、

〔延喜式三十七典藥〕諸國進年料雜藥

甲斐國十二種、黄菊花十兩、近江國七十三種、略○中黄菊花一斤二兩、下野國十四種、略○中黄菊花五兩、若狹國廿四種、略○中黄菊花二兩、阿波國卅三種、蘗胡、黄菊花、澤寫、橘皮各一斤、讃岐國卅七種、略○中黄菊花三兩、

〔類聚國史七十五歲時〕延暦十六年十月癸亥、曲宴、酒酣、皇帝武○桓歌曰、己乃己呂乃、志具禮乃阿米爾、菊乃波奈、知利曾之奴倍岐、阿多良蘇乃香乎、賜五位已上衣被、

〔類聚國史三十一帝王〕大同二年九月乙巳、幸神泉苑、琴歌間奏、四位已上、共插菊花、于時皇太弟峨○嵯頌歌云、美耶比度乃、曾能可邇米豆留、布智波賀麻、岐美能於保母能、多乎利太流祁布、上城○平和之曰、袁理比度能、己已呂乃麻丹眞、布智波賀麻、宇倍伊呂布賀久、爾保比多理介利、

〔年山打聞上〕菊の歌

萬葉集には、一首も見えず、それより後桓武天皇の御製を、類聚國史七十五卷に載られて云、○歌略

今按ずるに、今も菊の花は、九月中頃もしくは末つかたより十月迄盛也、萬葉に淡路廢帝天平寶字年中迄の歌を載られたるに、一首も見えざるは、稱德光仁の御代、或は桓武のころなど、もろこしより菊のわたりたるにや、

〔拾遺和歌集十七雜秋〕題さらず　よみ人さらず